

## 新約聖書 ルカによる福音書 6 章 20 節—31 節（新共同訳）

<sup>20</sup> さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。<sup>21</sup> 今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、／あなたがたは笑うようになる。<sup>22</sup> 人々に憎まれるとき、また、人の子のために追いつかれ、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。<sup>23</sup> その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。

<sup>24</sup> しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、／あなたがたはもう慰めを受けている。<sup>25</sup> 今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、／あなたがたは飢えるようになる。今笑っている人々は、不幸である、／あなたがたは悲しみ泣くようになる。<sup>26</sup> すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

<sup>27</sup> 「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。<sup>28</sup> 悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。<sup>29</sup> あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。<sup>30</sup> 求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。<sup>31</sup> 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

※第 1 朗読と第 2 朗読は末尾に掲載

## 説教「幸いである」

本日は召天者記念礼拝です。私たちは、大切な人が亡くなるという出来事を前にして、改めて、自分たちの命にも限りがあることに気が付きます。限りがある、ということは、終わりがある、ということです。そして終わりがある、ということは、始まりもあった、ということです。

自分の人生が始まる前、私たちはこの世にいませんでした。自分がこの地球上にいなかった時代があるのです。この地上に住む私たちが肉体として存在してなかった時がありました。私たち人間が肉体をもって生きるのは、ひとときのことなのです。

旧約聖書の『コヘレトの言葉』にあるように、死は、賢者であろうと愚者であろうと等しく訪れます（コヘレト 2:16）。しかし、このような人間のはかなさと生の限界性は、神の偉大さ・永遠性とは対照的に語られているのです。人間が死に直面する時は、絶対的な存在である神を知る時です。

本日の福音書に記されているイエス・キリストの言葉は、「貧しい人々は、幸いである」から始まります（ルカ 6:20）。この「貧しい」とは、貧乏という意味に加え、ここではもう少し広い意味を持ちます。この言葉は、「圧迫を受け、背を曲げた者の姿」を表し、「虐げられている者」「苦しむ者」「哀れな者」「柔和な者」「へりくだった者」「弱い者」という意味もあります。

この「圧迫を受け、背を曲げた者の姿」というのは、「外側からの力によって不本意な形で自分の生き方を変えられてしまい、どうしていいのかわからない」「周囲の人々や世間から圧迫され失望し、神の助けを必要とし、これにより頼むしか生きていけない」、そんな人の姿を表しています。そして、イエスは、神の国はそのような人たちのものであると言っているのです。

ですが、当時の人々にとっても、また今日の私たちにとっても、実際のところは、貧しさや困窮を何とか回避しようとして、そのための解決策を取りながら、必死で生きているのが現状ではないでしょうか。

多くの人々にとって、自らが幸せだとは思えない状況や現実は、数多くあると思います。何が何だかわからないけれど私たちを不安に陥れている事柄もあるでしょう。

しかしイエスは、私たちが経験し実感していることよりも、もっと深く私たちの悲慘さを知っておられ、直視しています。「貧しい人々よ」「今飢えている人々よ」「今泣いている人々よ」とは、生きていく中でどん底にある人、かろうじて生きている人の悲慘を知っているイエスが、全存在をかけて呼びかけてくださっている言葉なのです。

貧しい人々へのイエスの祝福は、貧しさを理想化しているのではありません。それは貧しい人々に、神が溢れるほどの恵みをお与えになる、との宣言です。

人間は、人の偉大さを、目に見える成果で測りがちです。しかし神は、そういったものでないところから、人間を誠実に見分けます。神は、この世から見捨てられた「貧しい」「虐げられた」人々を高く引き上げてくださいます。

イエスはまた、こう述べています。「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください」（ルカ 6:27）。

この言葉は、敵を愛せよ、という「愛敵」の教えです。

イエスは更に、愛敵について具体的に語ります。「悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい」（ルカ 6:28）。イエスがここで言う「悪口」や「侮辱」とは、いわば言葉による迫害です。

「あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない」（ルカ 6:29）。これは、相手の敵対心が身体的な暴力となって表れた場合です。イエスは、これらの悪に悪をもって報いてはならない、と教えます。

さらにイエスは「敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にしてください」と言います（ルカ 6:27）。ここでイエスが言う「愛」とは、イエスが何のために十字架にかかったかということに関わります。イエスの愛とは、私たちを救う愛です。

敵を愛するのは、人間にとって至難のわざと言えるでしょう。しかし、何のために敵を愛するのか——それは相手を救うためだと捉えれば、少し意識が変わってくるのではないのでしょうか。

私たちの地上での日々は、いつの日か終わりを迎えます。だからこそ、詩編 90 編 12 節に「生涯の日を正しく数えるように教えてください。知恵ある心を得ることができますように」とあるように、私たちは、限りのある人生をあいまいに過ごさず、残された日々、すなわち「生涯の日」を正しく数えることを知ることが求められるのです。

「生涯の日」を正しく数えるその内容は、人によって様々です。人間には一人一人その人しか果たせない固有の使命があるからです。

私たち一人一人は神から託された固有の存在であることを覚えながら、私たちはこの地上での日々を、希望と喜びをもって歩んでいきましょう。

お祈りをいたします。

天の父なる神様。あなたが与えてくださった命を、私たちが賢く用い、主と隣人に仕えながら生きていくことができますように。あなたのことばは天と地を繋げることを、いつも私たちに覚えさせてください。御子 主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

\*\*\*\*\* 説教ここまで \*\*\*\*\*

以下、本日に関連する聖書箇所（第 1 朗読と第 2 朗読）です。

旧約聖書 ダニエル書 7 章 1 節—3 節 a と 15 節—18 節（新共同訳）

<sup>1</sup> バビロンの王ベルシャツアルの治世元年のことである。ダニエルは、眠っているとき頭に幻が浮かび、一つの夢を見た。彼はその夢を記録することにし、次のように書き起こした。

<sup>2</sup> ある夜、わたしは幻を見た。見よ、天の四方から風が起こって、大海を波立たせた。<sup>3</sup>すると、その海から四頭の大きな獣が現れた。

<sup>15</sup> わたしダニエルは大いに憂い、頭に浮かんだこの幻に悩まされた。<sup>16</sup>そこに立っている人の一人に近づいてこれらのことの意味を尋ねると、彼はそれを説明し、解釈してくれた。<sup>17</sup>「これら四頭の大きな獣は、地上に起ころうとする四人の王である。<sup>18</sup>しかし、いと高き者の聖者らが王権を受け、王国をとこしえに治めるであろう。」

新約聖書 エフェソの信徒への手紙 1 章 11 節—23 節（新共同訳）

<sup>11</sup> キリストにおいてわたしたちは、御心のままにすべてのことを行われる方の御計画によって前もって定められ、約束されたものの相続者とされました。<sup>12</sup> それは、以前からキリストに希望を置いていたわたしたちが、神の栄光をたたえるためです。<sup>13</sup> あなたがたもまた、キリストにおいて、真理の言葉、救いをもたらす福音を聞き、そして信じて、約束された聖霊で証印を押されたのです。<sup>14</sup> この聖霊は、わたしたちが御国を受け継ぐための保証であり、こうして、わたしたちは贖われて神のものとなり、神の栄光をたたえることになるのです。

<sup>15</sup> こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、<sup>16</sup> 祈りの度に、あなたがたのことを思い起こし、絶えず感謝しています。<sup>17</sup> どうか、わたしたちの主イエス・キリストの神、栄光の源である御父が、あなたがたに知恵と啓示との霊を与え、神を深く知ることができるようにし、<sup>18</sup> 心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。<sup>19</sup> また、わたしたち信仰者に対して絶大な働きをなさる神の力が、どれほど大きなものであるか、悟らせてくださるように。<sup>20</sup> 神は、この力をキリストに働かせて、キリストを死者の中から復活させ、天において御自分の右の座に着かせ、<sup>21</sup> すべての支配、権威、勢力、主権の上に置き、今の世ばかりでなく、来るべき世にも唱えられるあらゆる名の上に置かれました。<sup>22</sup> 神はまた、すべてのものをキリストの足もとに従わせ、キリストをすべてのものの上にある頭として教会にお与えになりました。<sup>23</sup> 教会はキリストの体であり、すべてにおいてすべてを満たしている方の満ちておられる場です。

教会讃美歌 371 番「いつくしみ深き」、181 番「ここにいます」、250 番「つくられしものよ」、199 番「主よいま去りゆく」